



平成28年4月15日号(No.162)

「 教師力を高める 」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

いよいよ1学期が始まりました。先生方におかれましては、新たな出会いの中で慌ただしい日々を過ごしていることと思います。先ずは、子どもたちをしっかりと見つめてほしいものです。

さて、総合教育センターでは、学び続ける教員を支援するため、「専門家としての確かな力量」を高める研修、大学等との連携のもと、教職員の経験に応じた研修、教育課題に応じた研修等の充実に努めたいと考えています。

特に、今年度は、ミドルリーダー養成研修の積み上げとして、新たに「2年次ミドルリーダー養成研修」を行います。また、次期学習指導要領を見据え、授業改善に繋げていくため、アクティブ・ラーニング、道徳、英語、キャリア教育等の研修を充実します。さらに、大型ディスプレイ・実物投影機の全クラス配置にともなう研修と支援を行います。どうぞ、当センターを積極的にご利用くださいますようお願いいたします。

さて、国語教育の実践家である大村 はまさんは、「新編 教えるということ」の中で、次のような言葉を述べておられます。



私たち教師は、人間の力、人のよさ、子どもへの愛情、そういうものに自信をもち過ぎないで、そういったことはあたりまえというふうに考えて、教師でないとできない、といった技術をじゅうぶんに練りたいものです。そして、一自信をもち、自分が偉いという自信ではなく一教育の専門家として、このことをしていると言える、確かなものをもつ教師になりたいと思います。

研修会は、私たちが教えなければいけないこと、やはり、そうした教師らしさ、教師だけがもっているものを得るために、職業人として至らないところを鍛えあう会だと、私は思います。さらに、研究する、研修するということには、私たちがそうした力を磨くということだけでなく、もう一つ、大切な意味があります。それは私たちが子どもたちと同じ天地にいるためのくふうの一つでもあります。

大村 はまさんは、教師は何よりも実践的指導力を身に付けなければいけない。そして、子どもが伸びようとしているのと同じくらい教師も伸びようと努力しないと、子どもから無縁の人になってしまう。そのためには、研修が必要だと述べています。子どもの成長は複雑かつ多様です。それに対応するには「創造」する力が必要です。そのためには研修が欠かせないのです。研修をとおして、子どもの心に火をともしせるような教職員としての資質と実践的指導力を向上させ、教師力を高めてほしいものです。

教師力を高めよう ～「学級経営」と「授業」のポイントチェック～

いよいよ新年度がはじまりました。改めて「教師の基本」と、教師力を向上させる「学級経営」と「授業」についてのポイントを確認してみましょう。実りある1年間にするために、ご活用ください。

学級経営のポイント



子どもとのつながりを作り、理解を深める

- 子どもの良い所を見つけ、ほめることを心がけている
- 休み時間は子どもと話したり、一緒に遊んだりしている
- 日記やワークシートへコメントをしている
- 気になる子どもの様子や変化を記録している

明確なルール

- クラスのルールを明確に示している
- なぜクラスのルールを守らなければならないか、1つ1つ説明できる
- どの子どもに対しても、同じ対応ができています

教室の環境整備

- 授業や学校生活で使うものがきちんと整理されている
- 教室の前面はすっきりと見やすいレイアウトになっている
- 教室背面の掲示物は見やすくまとめられている
- 子どもの実態に応じた座席配置にしている

1年間の具体的な目標がある

- どんなクラスにしたいのかイメージしている
- めざす子ども像がある
- めざすクラス、めざす子ども像に向けた学級目標を設定している
- 学級目標を達成しているか、各学期で評価している

教師力

高い同僚性

- 子どものことについて、職員間で情報共有している
- 子ども理解や授業の進め方等、互いに教え、学び合っている
- 分からないことがあったら、相談できる同僚がいる

教師の基本

誠実

謙虚な姿勢

情熱

向上心

思いやりの心

教師らしい服装

丁寧な言葉づかい

礼儀正しさ

教師の基本

授業のポイント



わかりやすい授業の工夫

- 声の大きさや速さ等、聞き手を意識して話している
- 見やすい板書をこころがけている
- ICT機器を有効活用している
- 子どもが次に何をすればよいのかが分かるように、具体的な指示を出している

授業の構成

- 子どもが授業の見通しを持てるように、めあてを提示している
- 調べ学習や話し合い活動等、子どもが主体的に活動する時間を取り入れている
- 振り返りの時間を確保し、学んだことをノートに書かせている

学習活動の工夫

- 児童生徒が説明する・グループワーク・ペアワーク等の学習活動を取り入れている
- スムーズな発表・話し合いのための話型がある
- わかりやすいノートの書き方を指導している
- 授業内容に合わせた机の配置をしている

学習規律の徹底

- 挙手や返事の仕方等、授業のルールを決めている
- 授業や休み時間等、きちんと時間を区切って活動できている
- 教科書等は授業開始前に準備できている

平成28年第1回伊丹市議会における質問

平成28年第1回市議会で「コミュニティ・スクールの設置について」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】

コミュニティ・スクールのメリットや、児童生徒への影響はどのようなことが考えられるのか。

【答弁内容抜粋】

(教育長答弁) (前略)

コミュニティ・スクール導入のメリットですが、学校を中心としたコミュニティの基盤が構築されることにより、**学校・家庭・地域の全てにとってメリットがある**と考えています。

学校の教育方針の決定や教育活動に地域住民や保護者等が参画し、意向を反映させることで、当事者意識が強くなり、その地域ならではの創意と工夫を生かした**「特色ある学校づくり」**が進むと考えます。

具体的に申し上げますと、「学校運営の改善」としては、学校評価や学校関係者評価が充実し、学校の活性化につながります。また、**教員が子どもと向き合う時間が増える**と考えます。

「児童生徒の改善」としては、**児童生徒の学習意欲や学力の向上、生徒指導上の課題解決、不登校の減少**につながるものと考えます。

「保護者・地域の改善」としては、学校に対する保護者や地域の理解が深まり、保護者や地域の苦情が減少すると思えます。また、**家庭の教育力も向上**すると思えます。すでに、学校運営協議会を設置している学校の校長からは、「より特色ある学校づくりを展開することができるようになった」「学校運営協議会の意向等によって、学校のニーズに、よりの確に対応した支援を受けることができた」という認識が明らかにされています。

次に、児童生徒の変化ですが、教職員が子どもと触れ合う時間が増えることにより、**一人ひとりの子どもに対して、よりきめ細かな対応ができる**ようになり、ひいては、**学力の向上や不登校の減少、いじめや問題行動の減少**につながるものと思えます。

また、地域との関係がより密接になることで、実生活や実社会について体験的・探求的な学習が進み、**子どもの学びをより豊かなものにしていく**と思えます。

さらに、家庭の教育力の向上により、基本的な生活習慣の確立が、確かな学力や豊かな人間性、健やかな身体の育成につながるものと思えます。社会総がかりの体制で、子どもの教育に取り組むわけですから、形だけでなく本気で取り組めば、限りない成果が生まれてくると思っております。

コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

(文部科学省HP コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の説明より)

